

新刊紹介

有用海藻誌—海藻の資源開発と利用に向けて

大野正夫編著, B5判, 上製, 総頁596, 定価(本体)20,000円, 内田老鶴圃(2004)

近年,海藻の有効利用に関する社会の関心が非常に高まり,海藻の生物学に関する著書がかなり多く出版されるようになったが,有用海藻についてその生物学と利用に関する知見をまとめたものはなかった。本書は,食用海藻から化学成分を利用する海藻や医薬品・化粧品・肥料などに利用する海藻まで,多くの有用海藻の生物学と利用について,これまでに得られている学術的並びに産業的情報をそれぞれの種または分類群ごとに集大成したものである。海藻の研究者のみならず海藻の有効利用を目指す関係者にとって必須の知識が盛り込まれており,座右の書となることが期待される。

本文・引用文献・索引を合わせて575頁になる本書は,「有用海藻の生物学」「海藻の利用」「海藻の機能性成分」の3部から成り,31章にわたって36人の専門家がそれぞれ分担執筆している。引用文献は各章ごとにまとめられている。31の章は次の通りである。

1. ヒトエグサ, 2. アオサ類, 3. アオノリ類, 4. イワズタと暖海産緑藻, 5. ワカメ, 6. コンブ, 7. モズク類とマツ

モ, 8. ヒバマタ類, 9. アラメ・カジメ類, 10. アマノリ類, 11. テングサ類, 12. オゴノリ類, 13. ツノマタ類, 14. サングモ類, 15. 地方特産の食用海藻, 16. 世界の海藻資源の概観, 17. 海苔産業の歴史とその推移, 18. 昆布産業の歴史・現況と展望, 19. ワカメ産業の現状と展望, 20. ひじきと海藻サラダ産業の現状の展望, 21. 沖縄のモズク類養殖の発展史—生態解明と養殖技術—, 22. 青海苔産業の歴史と現状, 23. 伝統的な寒天産業, 24. カラギナン—その産業と利用—, 25. アルギン酸—その特性と産業への展開, 26. 藻の文化, 27. 海藻の抗がん作用, 28. 海藻と健康—老化防止効果—, 29. 海藻の化学成分と医薬品応用への可能性, 30. 海藻と肥料, 31. 海藻と化粧品

末尾に和名索引, 学名索引, 事項索引, 欧文事項索引がある。

なにぶんにも600頁に近い大部のため高価であるが,海藻関連の教育研究機関や試験研究機関の図書室・研究室には備え付けが好ましく,海藻利用を目論む産業界の人々にとっては必携の書であろう。

東京農業大学 有賀祐勝